

日刊 労働千葉

85. 10. 12

No. 2062

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一八（動力車会館）
（鉄電）二九三五・六（公衆）〇四七二・二二七・〇七



怒りをバネに11月スト ますますが ゆいてくる

＝日々が新たな怒りだ＝

開発センター通信 労働千葉

10・20三里塚
怒りのストライキに決起しよう！

不当処分粉砕！
「分割・民営化」阻止！

ストライキ体制を構築しよう！

全支部で、ワッペン・名札への大量不当処分に対する抗議行動、十一月怒りのストライキ決起にむけた意志統一が開始され、着々と闘争体制が確立されている。各支部の闘いを紹介する。

九月から本格的にはじまった「業務開発センター」は船橋駅から歩いて三分のところにあり、十月一日現在、動労千葉八人、国労二五人、全動労一人の計三十四人が、千葉・幕張・津田沼電車区から「過員」とされ集められている。

「開発」とは名ばかり

仕事は「開発」というよりイヌクギ、レールをカットをしたものをブンチンにしたり、ロッカー・机・イスの再生、行先字幕をパネル化するなど、場当りの物まね的で採算にも合わない内容であり、センターそのものも部屋だけでまともな設備・備品もないという全くタコ部屋そのものである。まさに、当局が何の具体的見通しもなく、ただ「センター」をつくればよいという姿勢で強行したことを示している。

こうした一方で、助役は、作業、朝の体操などについて逐一チェックするなど

監視体制のためのみいるという反動ぶりである。われわれは当局のチェックが明らかになるや、そのつど追及するとともに階級的警戒心をもやし闘いぬいている。

センター班は10・20に総決起する

開発センター設立のねらいは、十万人首切りの準備として「要員」と「過員」の区分けをするためであることは明らかだ。だが、当局が意図しているようにわれわれを屈服させたり飼いならしたりすることは絶対に出来はしない。国鉄労働者をムシケラのように扱う政府・国鉄当局に日々新たな怒りをもやして、われわれは不屈・非妥協に闘い続けている。

われわれ国鉄労働者をムシケラのように扱う政府・当局を許してはならない。

「分割・民営化」阻止、中曽根打倒へ、怒りのストライキに起とう。10・20三里塚へ「センター」班の組合員は総力決起する。十一月スト貫徹へ共に闘おう。

ワッペン・名札のデータメモ処分が倍化

反動区長を連日追及
（成田支部通信員発）

支部は、九月二十日、第十四回拡大執行委員会を開催し、ワッペン・名札を理由とした不当処分への抗議に総決起し、その怒りを十一月ストへと結合させて行くことを決定した。

役員を先頭に区長室におしかけ、九月十七・二四日まで連続した抗議行動を反動小野区長に叩きつけた。

この中で、支部の調査により、①警告書、注意指導を全く受けていない者が処分されている。②警告書に日付けがなく、後日、処分者が乗務で不在であることを

確めたうえでココソコと個人のロッカー

週刊 火災

11月1日 火災発生件数 307,000件
10月1日 火災発生件数 275,000件
10月1日 火災発生件数 183,000件

火災発生件数が増加傾向にある。原因は主に電気設備の老朽化によるものである。防火対策の徹底が求められる。

11月1日 労働者スト実施に向け
10月11日 支部大会の成功をどうするか
この大会は、労働者スト実施に向け、支部の団結を高め、闘争体制を確立させる重要な大会である。

11月1日 ストライキ実施に向け
10月11日 支部大会の成功をどうするか
この大会は、労働者スト実施に向け、支部の団結を高め、闘争体制を確立させる重要な大会である。

怒りは高まる一方である。そもそも「分割・民営化反対」ということが問題だとして労働者の考え方、意見そのものを処分の対象にするという今回の処分を絶対に許すことはできない。

処分の乱発で組合活動を圧殺し、十万人首切りの道を開こうとする処分反撃を絶対に許さず、10・20三里塚総決起十一月ストで断固、反動中曽根打倒・国鉄攻撃粉砕へ向け闘う。